

【参考文献・引用文献】

全般

番号	著者名	年	標題	資料名	巻	号	ページ	出版社名	対象種	地域
AA	服部正策・伊藤幸	2000	マンガースとビジョン	現代日本生物誌	11			岩波書店		全国
AB	東英生	1991	帰化植物について	野生動物保護-21世紀への提言-第一部 日本自然保護協会誌書4号			77-90	日本自然保護協会		全国
AC	平岡剛士	1999	エイリアン・スピーシーズ					緑風出版		全国
AD	池田透	1997	日本における移入哺乳類の種目と問題点 - 環境問題としての移入動物 -	北海道大学文学部	46	1	195-215			
AE	川童武男	1999	帰化植物が日本の自然を揺るがす	Newton	19	7	80-87			
AF	草刈隆紀	1999	野生動物の輸入状況について	関西自然保護機構	21	1	9-12			
AG	宮下和喜	1997	帰化植物の生態学 - 侵略と適応の歴史 -				207	講談社		
AH	村上興正	1996	移入動物による生物多様性の損失 - 総合論に向けて	関西自然保護機構	18	2	121-127			
AI	村上興正	1998	移入種対策について - 国際自然保護連合ガイドライン案を中心に -	日本生態学会誌	48		87-95			
AJ	村上興正	1998	移入種とは何か、その管理はどのようにすべきか?	遺言	52	5	11-17			
AK	村上興正	1999	海産魚類における生物多様性の保全と移入種利用	月刊 海洋		号外	17	134-140		
AL	村上興正	1999	飼育下にある動物の管理 - 移入種管理と関連して	関西自然保護機構	21	1	63-68			
AM	村上興正	1999	シンポジウム「野生動物とどのように付き合うか」 - 移入種やペットの管理に関連して - 趣意説明	関西自然保護機構	21	1	5-7			
AN	中村一恵	1988	日本の帰化植物 - 外国からやってきた生きものたち -					神奈川県立博物館		全国
AO	根本久	1999	外来天敵の導入を巡る諸問題	関西自然保護機構	21	1	43-52			
AP	日本自然保護協会		エイリアン・スピーシーズ	自然保護			450	2-15	日本自然保護協会	全国
AQ	太田英利・土屋誠・池原真雄	1997	沖縄の生き物の現状(連載「沖縄の生き物の不思議な生活」参照)	遺言	51	3				沖縄県
AR	高橋尚彦	2000	鳥獣保護法改正が残した科学的課題 - 移入種と野生動物の管理を中心に -	生物科学	52	3				
AS	高京健二・当山昌直・小浜雄・幸世良仁・知念盛俊・比嘉ユキ子		沖縄の帰化植物 - 海をこえてきた動物たち -					沖縄出版		沖縄県
AT	富山清子	1998	小笠原諸島の移入動物による島嶼生態系への影響	日本生態学会誌	48		63-72			小笠原諸島
AU	鷲谷いづみ	1996	地域生態系を脅かす帰化生物	日経サイエンス			6月	50-59	日経サイエンス社	全国
AV	鷲谷いづみ・森本啓生	1993	日本の帰化生物					保育社		全国
AW	世界自然保護基金日本委員会		特集 移入種 その影響と対策	Monthly Magazine WWF	29	261	1-7	WWF Japan		全国
AX	羽山伸一	2001	野生動物と人間の関係生態学(11) 移入種問題	畜産の研究	55	2	317-325			
AY	クリス・フライト(福岡県立歴史・環境文化創造研究所訳)		生態系を破壊する小さなインベーダー (Life Out of Bounds (1998))					家の光協会		
AZ	阿部琢	1994	北海道における帰化植物	北海道の自然と生物	9		1-9			北海道
BA	チャールズ・S・エルトン(川那原啓哉・犬沢秀行・阿部琢訳)		侵略の生態学					思索社		
BB	ペリンハルト・ケーケレ(小山行幸訳)		放浪するアリ					新評論		
BC	川井貞久・川那原啓哉・水野信彦		日本の淡水生物 - 侵略と攪乱の生態学 -					東海大学出版会		

哺乳類

番号	著者名	年	標題	資料名	巻	号	ページ	出版社名	対象種	地域
1	阿部匠一	1965	帰化獣ハクビシ	上村登編 四国の自然	44			六舟社	ハクビシ	四国
2	阿部眞太郎・高橋義隆・半田ゆかり・和秀雄	1991	奄美大島におけるマングース ( <i>Herpestes sp.</i> ) の定着	哺乳類科学	31	1	23-36		マングース	奄美大島
3	阿部眞太郎	1993	奄美大島に生息するマングースの個体数推定	チリモスプレス	4		2-5		マングース	奄美大島
4	阿部眞太郎	1994	沖繩島の移入マングースの現状	チリモス	5	1	34-43		マングース	沖繩県
5	朝日総	1990	ヌートリア	河合雅雄・川原啓哉(編) 日本の淡水動物			95-105	東海出版	ヌートリア	全国
6	羽塚町	1995	天売島海鳥群集生息実態調査						ネコ	天売島
7	半田ゆかり	1992	マングースの被害調査 - 総括 -	チリモス	3		28-34			奄美大島
8	長谷川雅美	1986	三宅島へのイタチの放獣 その経緯	採集と飼育	46		444-447			東京都(三宅島)
9	東英生	1992	日本国内における外来哺乳類の生息状況とそれ対策の現状	マングース						全国
10	北海道農業学研究所	1995	ウミガラス等海鳥群集生息実態調査報告書	ニホンイタチ						天売島
11	哺乳類学調査専門委員会	1999	移入哺乳類への緊急対策に関する大会要義			1	115-129		全般	全国
12	池田透	1993	「北海道釧路市における野生化のアライグマの生息調査」	ネコ			3-11		アライグマ	北海道
13	池田透	1998	移入哺乳類の現状と対策	遭云	52	5	37-41			
14	池田透	1999	北海道における移入アライグマ問題の経緯と課題	北海道大学文学部紀要	47	4			アライグマ	北海道
15	今泉吉典	1997	ハクビシ、帰化動物の移動	アニマ	54		48		ハクビシ	
16	伊藤晴清	1966	野鼠の天敵としてのイタチの導入記録	沖繩農業	5	2	45-53		ニホンイタチ	沖繩県
17	石狩支庁アライグマ被害検討協議会・北海道石狩支庁	1999	アライグマによる農業被害防止の手引き					北海道石狩支庁	アライグマ	北海道
18	環育子・長崎県	1997	ソシマヤマネコ 第2次生息実態調査・人工繁殖実態調査報告書						ネコ	長崎県
19	神崎伸夫・村田晴子・金澤文吾	1999	東京都におけるネコの野生化とそれに対する地域住民の意識	関西自然保護機関会報	21	1	13-19		ネコ	東京都
20	環育子・鹿児島県	2000	平成11年度島しょ地域における移入種駆除・制御マニュアル(奄美大島:マングース)調査報告書						マングース	奄美大島
21	川管寿子	2000	輸入されるリス類と感染症	リスとムササビ	7		4-5		リス類	
22	小林肇生	1987	鎌倉市周辺におけるタイワンリスの近況	神奈川県自然誌資料	8		67-70		タイワンリス	神奈川県(鎌倉市)
23	国見裕久	1982	クワゴマダラヒトリのウィルス病の疫学	島の生物	1	2	13-16		イタチ	三宅島
24	三浦真吾	1994	ヌートリア	日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料( )			539-546	水留子	ヌートリア	
25	宮城邦台・白石哲・内田照寛	1975	長崎県松浦市青島に放獣されたチョウセンイタチの生息(予報)	哺乳類科学	31		43-57		チョウセンイタチ	長崎県
26	森台	1990	下川町におけるタイワンリスの現状	モッキー	229		20-24		タイワンリス	青森県
27	長崎県	1991	国産男女鶴島鳥類保護区管理委託実施報告書						ネコ	長崎県
28	中村一恵	1988	ニホンイタチとチョウセンイタチ、帰化動物による在来種への影響	日本の帰化動物 - 外国からやってきた生きものたち -				神奈川県立博物館	チョウセンイタチ	
29	日本霊長類学会・霊長類保護委員会	2000	和歌山タイワンリス問題への取り組み	日本霊長類学会9 霊長類保護委員会ニュースレター	9		9-10	日本霊長類学会	タイワンリス	和歌山県
30	日本霊長類学会・霊長類保護委員会	1992	下川のタイワンリス問題	日本霊長類学会2 霊長類保護委員会ニュースレター	2		2-7	日本霊長類学会	タイワンリス	青森県
31	農林省宮城県林業課	1980	存続調査事業20年のあしあと						ニホンイタチ	
32	小原敏	1967	西表島に移入されたホンDOIタチ	哺乳動物学雑誌	3	5	127-128		ニホンイタチ	西表島
33	岡田篤・立塚太郎・村上興正	1998	岐阜県に生息するヌートリア( <i>Myocastor coypus</i> )の分布の変遷	関西自然保護機関会報	20	2	77-81		ヌートリア	岐阜県
34	沖繩県	2000	平成11年度やんばる地域における聞き取り調査によるマングースの分布実態調査報告書						マングース	沖繩県

番号	著者名	年	標題	資料名	巻	号	ページ	出版社名	対象種	地域
35	沖縄県教育委員会	1996	ケラマカガ保蔵鳥類緊急実態調査報告書	沖縄県天然記念物調査シリーズ	35			沖縄県教育委員会	ケラマカガ	沖縄県
36	沖縄県総合事務局北部ダム事務所	1995	平成6年度沖縄本島北部地区生物見直し調査						ネコ	沖縄県
37	林野庁編	1989	鳥獣行政のおひめ						ニホンイタチ	
38	坂田司・中園敏之	1991	牛深市大島における野生化したカイウサギの生態研究	熊本野生動物研究会誌	1		27-33		アナウサギ	熊本県
39	白石哲	1982	イタチによるネズミの駆除とその後	採集と飼育	44	9	414-419		ニホンイタチ	
40	自然環境研究センター	1994	日本の哺乳類					東海大学出版会	全般	全国
41	自然環境研究センター	1995	小笠原群島における植生回復調査報告書					東京都小笠原支庁	ヤギ	小笠原群島
42	自然環境研究センター	1998	平成6年度ソノマヤマネコ緊急実態調査報告書						ネコ	茨城
43	柴田雄雄	1997	いさか困ったエイリアン・神奈川の渡来哺乳類とその問題点	神奈川の自然	59		3-7	神奈川県自然保護協会		神奈川県
44	白井啓	1988	下北のタイワンサル問題	モキヤ	219		3-7		タイワンサル	青森県
45	高木昌興・樋口広芳	1992	伊豆諸島の三宅島におけるアカコッコTurdus celanopsの環境選考とイタチ捕獲の影響	Strix	11		47-57		ニホンイタチ	東京都(三宅島)
46	高橋成	1995	野生動物と野生化家畜					大明堂	イノシシ・ヤギ	
47	寺沢孝毅	1993	オロロン島 北のペンギン物語					丸善	ネコ	天売島
48	常田邦彦・安永原	1999	小笠原群島におけるヤギ排除事業	関西自然保護機構機関誌	21	1	21-30		ヤギ	小笠原
49	常田邦彦・安永原	2000	小笠原におけるヤギ問題-自然回復を目的とした移入種排除の異変別-	遭云	54	10	81-85		ヤギ	小笠原
50	富山清十	1998	移入哺乳類による生態系の破壊 小笠原群島の暴合	遭云	52	5	44-45		ヤギ	小笠原群島
51	山田文雄	1998	わか国における移入哺乳類の現状と課題	哺乳類学	38	1	97-105		全般	全国
52	山田文雄・藤田慶	1992	石川県七ツ島大島における野生化カイウサギの実態と今後の課題					石川県自然保護機構	カイウサギ	石川県(七ツ島大島)
53	山田文雄・林孝乾・阿部真太郎	1999	奄美大島における移入マングース対策の現状と課題	関西自然保護機構機関誌	21	1	31-41		マングース	奄美大島
54	柳川久	2000	ペットとして日本に持ち込まれている外国産リス類	リスとムササビ	7		2-3		リス類	全国
55	池原真夫	1991	沖縄県における外来哺乳類・鳥類の分布状況	南西諸島の野生生物に及ぼす移入動物の影響調査			31-42	世界自然保護基金日本委員会		沖縄県
56	北海道立水産庁	2000	「アライグマをはじめとする移入動物を考える」フォーラム報告書						アライグマ他	
57	池田透	2000	移入アライグマをめぐる諸問題	遭云	54	3	59-63		アライグマ	
58	池田透	2000	移入アライグマの管理に向けて	保全生態学	5	2	159-170		アライグマ	北海道
59	池田透・遠藤俊史・村野誠雄	2001	野柳松島公園地帯におけるアライグマの行動圏	酪農学園大学紀要 自然科学編	25	2	311-319		アライグマ	北海道
60	山田文雄	2000	移入マングースと奄美大島の生態系	遭云	54	5	55-60		マングース	奄美大島
61	池田透	1996	帰化哺乳類総論	日本動物大百科	2		124-125	平凡社	全般	
62	鹿野一厚	1996	イエウマ	日本動物大百科	2		126-130	平凡社	ウマ	
63	山田文雄	1996	カイウサギ	日本動物大百科	2		131	平凡社	カイウサギ	全国
64	田村典子	1996	タイワンリス	日本動物大百科	2		132-134	平凡社	リス類	全国
65	三浦真吾	1996	ヌートリアとマスカラット	日本動物大百科	2		134-135	平凡社	齧齧類	全国
66	鳥居清己	1996	ハクビシン	日本動物大百科	2		136-137	平凡社		全国
67	阿部真太郎	1996	マングース	日本動物大百科	2		138-139	平凡社		奄美大島・沖縄
68	浦二宏二	1996	ミンク	日本動物大百科	2		139	平凡社		北海道
69	池田透	1996	アライグマ	日本動物大百科	2		139-140	平凡社		全国
70	山田文雄	1991	Feral rabbits on Japanese islands	Lagomorpha Newsletter		14	9-11	Lagomorpha Specialist Group	カイウサギ	全国

鳥類

番号	著者名	年	標題	資料名	巻号	ページ	出版社名	対象種	地域
1	江和洋	1999	外国産鳥類の野生化による土着鳥類集の懸念に関する研究	平成8年度～平成10年度 科学研究費補助金(基礎研究(B)(2)) 研究成果報告書				全般	全国
2	江和洋・天野葉	1999	移入鳥類の帰化	日本鳥学会誌	47	3	97-114	全般	全国
3	石橋敬	2000	飼養鳥を考える第7回 鳥類輸入証明書って何だ?	私たちの自然	41	461	8-10	日本鳥類保護連盟	メシロ
4	中村恵	1998	移入鳥類の問題 チメドリ類の野生化を中心に	遺言	52	5	33-36		チメドリ類
5	日本鳥学会	2000	日本鳥類目録 改訂第6版				日本鳥学会	全般	全国
6	日本野鳥の会	2000	-特集 日本にすみつき た外国の鳥たち 移入種-	野鳥	663	7	1月15日	日本野鳥の会	全般
7	東条史	1996	日本における帰化鳥類の現状と問題点	関西自然保護機構 会報	18	2	107-114		
8	山岸哲	1996	帰化鳥は思はずや異境の風土にも馴染まず漂う	関西自然保護機構 会報	18	2	77-78		

両生・爬虫類

番号	著者名	年	標題	資料名	巻号	ページ	出版社名	対象種	地域
1	長谷川雅美	1999	ウサガリの秘められた歴史	尾崎敏雄・長谷川雅美(編)カエルのきもち		100-107	千葉県立中央博物館	ウサガリ	全国
2	足田務・太田英利・当山昌直	1992	東洋系要素と旧区系要素の出遭うところ、トカラ列島とその周辺の鳥々の爬虫・両生類目	沖縄生物学会誌	30	29-43			トカラ列島
3	勝重謙輝・西川昌彦・香坂昇男	1996	沖縄列島において本来の分佈地とは異なる地域で採集されたヘビ	沖縄生物学会誌	34	1-7		ヘビ類	沖縄列島
4	小林頼太	2000	千葉県北西部で捕獲されたカミツキガメについて(講義要旨)	爬虫両生類学会報		1	58-59		カミツキガメ
5	前田憲男・松井正文	1999	改訂版日本カエル図鑑				文一総合出版社	カエル類	全国
6	饒平名美・当山昌直・安雄一郎・陳賜峰・高橋健・久貝勝盛	1998	宮古群島における陸棲爬虫両生類の分布について	平良市総合博物館 紀要	5	23-38		シロアゴカエル	宮古群島
7	太田英利	1981	波羅群島の爬虫両生類目	爬虫両生類学雑誌	9	2	54-60		セマリハコガメ
8	太田英利	1995	琉球列島における爬虫・両生類の移入	沖縄列島研究	13	63-78			琉球列島
9	太田英利	1996	トカラ列島における爬虫・両生類の分散、分化と保全	中津和朗・氏家宏・池原敏雄・田川日出男・堀吉成(編) 南の島々・日本の自然・地球巻8		161-163	岩波書店		トカラ列島
10	太田英利	1997	両生類と爬虫類たち	池原・加藤(編) 沖縄の自然を知る		109-128	築世書館		南西群島
11	太田英利	2000	セマリハコガメ	環育子(編) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物(両生類・爬虫類)		40-41	自然環境研究センター	セマリハコガメ	沖縄県
12	太田英利・伊藤佳子	1996	シンボヤム：屋嘉比島を中心とした慶良群島の動物目とその保全	沖縄列島研究	14	1-22			慶良群島(屋嘉比島)
13	太田英利・佐藤寛之	1997	第 部 両生・爬虫類 6. スッポン Pelodiscus sinensis (Wiegman, 1834)	平成8年度 希少な水生生物保存対策試験事業 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料( )		322-344	社団法人 日本水産資源保護協会	スッポン	
14	太田英利・古瀬告史・八木下潤	1995	伊豆群島八丈島における種の外来爬虫類の移入	沖縄生物学会誌	33	55-59		ミナミヤモリ・メクラヘビ	伊豆群島八丈島
15	太田英利・嘉数肇・伊藤佳子	1995	沖縄本島におけるアノールトカゲ Anolis carolinensis の繁殖集団の発見	沖縄生物学会誌	33	27-30		グリーンアノール	沖縄本島
16	大谷勉	1998	高田爬虫類研究所中絶分室に持ち込まれたタイワンスシオ	Akanata	14	12		タイワンスシオ	沖縄県
17	佐藤寛之・吉野浩夫・太田英利	1997	沖縄県内の島嶼におけるスッポン(Pelodiscus sinensis)(爬虫類、カメ目)の起原と分布の現状について	沖縄生物学会誌	35	19-26		スッポン	沖縄県
18	千石正一・足田務・松井正文・仲谷一宏	1996	日本動物大百科第5巻両生類・爬虫類・軟骨魚類				平凡社		全国
19	Shirona, H., S.Katsuren, and M. Nozaki	1994	Cobra species in Nago, Okinawa.	沖縄県環境衛生環境研究報告	28	89-93		タイコブラ	沖縄県名護市

番号	著者名	年	標題	資料名	巻	号	ページ	出版社名	対象種	地域
20	出羽寛・斎藤範・南高貴	1997	旭川周辺におけるツチガエル <i>Rana rugosa</i> の分布	旭川市博物館研究報告	3		19-23		ツチガエル	北海道
21	斎藤範・有田智彦	1997	北海道のツチガエル <i>Rana rugosa</i> (Anura) は native か? Immigrant か? - 札幌地区および札幌地区を例にして -	旭川市博物館研究報告	3		11-17		ツチガエル	北海道
22	斎藤範・武井博人・南高貴	1996	北海道におけるアズマヒキガエル <i>Bufo japonicus formosus</i> の新分布地	旭川市博物館研究報告	2		21-23		アズマヒキガエル	北海道
23	斎藤範・富川徹・横山透	1998	北海道におけるトノサマガエル及びトウキョウダルマガエルの新分布地	旭川市博物館研究報告	4		25-29		トノサマガエル・トウキョウダルマガエル	北海道
24	竹井謙	1993	北海道に帰化したトノサマガエルの北広島市における分布	北海道東海大学紀要(理工学系)	10		43-49		トノサマガエル	北海道
25	斎藤範	2001	いかにして北海道のツチガエルが生息するようになったのか?	両生類誌	6		13-17		ツチガエル	北海道

## 魚類

番号	著者名	年	標題	資料名	巻	号	ページ	出版社名	対象種	地域
1	秋月岩魚	1999	ブラックバスがメダカを食う	宝島新書				宝島社	ブラックバス・ブルーギル	全国
2	東寿鉄	1998	移入された淡水魚による生態系の攪乱	遭云	52	5	28-32		淡水魚	全国
3	Chiba, K., Y. Taki, K. Sakai, and Y. Ozeki	1989	Present status of aquatic organisms introduced in Japan.	De Silva (ed.) Exotic aquatic organisms in Asia.	特別号	3	63-70	Asian Fisheries Society	全般	全国
4	那智昭尚	1997	琵琶湖におけるブルーギルの生息地の構造と種間-沿岸域の人為的攪乱と外来魚による場所利用-	関西自然保護機構会報	19	1	11-23		ブルーギル	琵琶湖
5	かくまつとむ	1999	21世紀のかがね第5回「ブラックバスに食われた国」	ビーノル			106-110	小学館	ブラックバス	
6	かくまつとむ	2000	バス・ブルーギル問題の筋	生物多様性研究会(編)ブラックバス問題を考える			4-7		ブラックバス・ブルーギル	全国
7	桐生透	1992	オオクチバス(2)分布と生息水域	全国内水面漁業協同組合連合会編. ブラックバスとブルーギルのすべて: 外来魚対策検討委員会報告書			20-27	全国内水面漁業協同組合連合会	ブラックバス	
8	丸山隆哉・藤井一則・木島利通・前田也	1987	外国産新魚種の導入経過				1-147	水産庁水産資源課 水産庁水産研究所	全般	
9	中井亮樹	1996	琵琶湖における外来種の現状と問題点~とくにカビハリガイと「バス問題」について~	関西自然保護機構会報	18	2	87-94		ブラックバス・カビハリガイ	琵琶湖
10	中井亮樹	1999	「バス釣りブーム」がもたらすわが国の淡水生態系の危機-何が問題で何をなすべきか	森威一(編)「淡水生物の保全生態学-復元生態学に向けて」			154-168	信山社サイテック	ブラックバス	
11	中井亮樹	1999	水辺の危機-バス釣りブームがもたらす生態系の破壊	兵庫・水辺ネットワーク[編]「水辺フォーラム'99資料集」			13-20(資料部分を削除)	兵庫・水辺ネットワーク	ブラックバス	
12	中井亮樹	2000	生態学的に問題している藻類-バスは外来魚絶滅への加担者	週刊釣りサンデー	25	22	56-59		ブラックバス	
13	中井亮樹	2000	外来魚問題-琵琶湖からの報告	資料集 移入生物(Invasive species)問題を検討するマガジ					ブラックバス	琵琶湖
14	リバーフロント整備センター(編)	1996	川の生物叢書					保育社	全般	全国
15	生物多様性研究会	2000	ブラックバス問題を考える	生物多様性研究会資料集					ブラックバス	
16	水産庁	1992	移入された問題となり得る主な外国産魚種に関する文献調査				1-159	全国内水面漁業協同組合連合会		
17	鈴木紀雄	1996	生態系の変化がブラックバスの繁殖をもたらし! その問題点と対策	関西自然保護機構会報	18	2	95-106		ブラックバス	

無脊椎動物（昆虫類）

番号	著者名	年	標題	資料名	巻	号	ページ	出版社名	対象種	地域
1	五箇公一	1998	移入生物の在来生物相への影響 - セイヨウオオマルハナバチは日本在来マルハナバチの遺伝子組成を汚染するか? -	日本生物地理学会報	53	2	91-101		セイヨウオオマルハナバチ	
2	五箇公一・岡部真美子・丹羽里美・米田昌浩	2000	輸入されたセイヨウオオマルハナバチのコロニーより検出された内部寄生虫ダニとその感染状況	日本応用動物昆虫学会誌	44	1	47-50		セイヨウオオマルハナバチ	
3	石井実	1996	導入された小動物,特に昆虫類の引き起こす問題	関西自然保護懇話会報	18	2	79-86		全般	
4	森本啓生	1998	外来昆虫の現状と対策	遺云	52	5	23-27		全般	
5	小野正人	1998	セイヨウオオマルハナバチの移入問題	遺云	52	5	42-43		セイヨウオオマルハナバチ	
6	鷲谷いづみ	1998	保全生態学から見たセイヨウオオマルハナバチの移入問題	日本生態学会誌	48		73-78		セイヨウオオマルハナバチ	
7	石井実・大谷剛・常喜豊	1998	昆虫	日本動物大百科	10		38-39	平凡社	ヤブシロハナバチ	
8	森本啓生・桐谷善治	1995	日本の外来昆虫相	農業環境技術研究所報告	12		87-120		全般	
9	桐谷善治	2000	世界を漂着する侵入昆虫	インセクタリアム	37	8月号	226-227		ワタカシ	

無脊椎動物（昆虫類以外）

番号	著者名	年	標題	資料名	巻	号	ページ	出版社名	対象種	地域
1	中井邦樹	1995	日本に侵入したカワヒバリガイ発見の経緯とその繁殖性	関西自然保護懇話会報	17	1	49-56		カワヒバリガイ	
2	中井邦樹・松田征也	2000	日本における淡水貝類の外来種 - 問題点と対策 -	月刊海羊/「軟体動物学 - 動向と将来 -」		号外20	57-66		カワヒバリガイ	
3	沼田真・風呂田利夫	1997	東京湾の生物誌					築世書館		

維管束植物（リスト類・参考資料）

番号	著者名	年	標題	資料名	巻	号	ページ	出版社名	対象種	地域
1	日本生態学会	2002	外来種ハンドブック (植物)						維管束植物 (1553種)	全国
2	太刀掛優	1998	帰化植物図鑑					比叢洋学教育振興会	維管束植物 (1319種)	全国
3	長田武正	1972	日本帰化植物図鑑					北隆館	全般	全国
4	長田武正	1976	原色日本帰化植物図鑑					保育社	全般	全国
5	清水昭宏・森田彦・廣田伸七	2001	日本帰化植物写真図鑑					全国書教協	全般	全国
6	久内清孝	1950	帰化植物					科学書出版会		
7	浅井康宏	1993	緑の侵入者たち (帰化植物のたなし)	朝日叢書				朝日新聞社		
8	沼田真・長田武正・飯塚茂・林一六	1975	帰化植物	環楽科学ライブラリー13				大日本図書	維管束植物	全国
9	岩瀬敏	1996	帰化植物	千葉県の自然誌 本編1 千葉県の自然 県史シリーズ40			493-516	千葉県地球形質図編	種子植物	千葉県
10	栃木県立博物館	1993	日本の帰化植物					栃木県立博物館	植物	全国
11	外来種対策研究会	2001	河川における外来種対策に向けて [案]					リバーフロント整備センター	河川の植物	全国の一級河川敷
12	長田武正	1993	増補日本イネ科植物図譜					平凡社	イネ科植物	全国
13	角野謙郎	1994	日本水草図鑑					文一総合出版	水草	全国
14	堀田満・緒方健・新田あや・星川清規・柳宗民・山崎洋行	1999	世界有用植物事典					平凡社	有用植物	全国
15	安藤夫・小笠原亮・森玄	2001	日本花名鑑					アポック社	園芸植物	全国
16	山口裕文	1997	雑草の自然史 - たくましさの生態学 -					北海道大学図書刊行会	雑草 (1195種)	全国
17	竹松哲夫・一前直正	1987	世界の雑草 合弁花類					全国書教協	合弁花類の雑草	世界
18	竹松哲夫・一前直正	1993	世界の雑草 離弁花類					全国書教協	離弁花類の雑草	世界
19	竹松哲夫・一前直正	1997	世界の雑草 単子葉類					全国書教協	単子葉類の雑草	世界

維管束植物（事例報告）

番号	著者名	年	標題	資料名	巻号	ページ	出版社名	対象種	地域
20	鷲谷いづみ	1998	侵入植物が生物多様性に及ぼす脅威	遷云	52	5	18-22		シダ属、カガヤ、オオバコなど 全国の河原
21	中坪孝之	1997	河川氾濫原におけるイネ科開花草本の定着とその影響	保全生態学研究	2		179-187		イネ科植物（シダ属、カガヤなど） 広島県
22	清水敏宏	1998	最近の外来種の侵入・拡散の現状と防止策	日本生態学会誌	49		79-86		雑草（イネなど8種） 全国
23	富井美和・鷲谷いづみ	1998	フジノカタマとセイタカアワダチソウの夏季における地上部喪失に対する反応-復元植生の管理計画を立てるために-	保全生態学研究	3		57-66		セイタカアワダチソウ 茨城県の美馬場
24	鷲谷いづみ	1996	オオバコタケサ、闘う					平凡社	オオバコ 全国
25	西山理行・鷲谷いづみ・宮脇成生	1998	オオバコタケサの成長と繁殖に及ぼす刈草の影響	保全生態学研究	3		125-142		オオバコ 埼玉県田島ヶ原
26	宮脇成生・鷲谷いづみ	1996	土壌ノードリンク考慮した個体動態モデルと侵入植物オオバコタケサの駆除効果の予測	保全生態学研究	1		25-47		オオバコ 埼玉県田島ヶ原
27	渡邊鉄夫・小川三穂・内藤江・神崎護・林英基・菅原俊介	1997	大阪府における雑草種多様化タンポポクの頻度と分布	関西自然保護機関報告	19	2	69-77		タンポポ 大阪府
28	渡邊善夫	1988	タンポポクの分布と現状と未来	日本の植生 侵略と雑草の生態学			159-169	東海大学出版会	タンポポ属 岡山市
29	土田勝義	1988	霧ヶ峰高原のヒメジョオン類の動態	日本の植生 侵略と雑草の生態学			160-180	東海大学出版会	ヒメジョオン属 長野県霧ヶ峰
30	四手井綱英	1998	外国種導入をめぐる4論考	関西自然保護機関報告	20	1	47-51		木本類 小笠原
31	富山清十	1999	小笠原諸島の移入植物による島嶼生態系への影響	日本生態学会誌	48		63-72		ギンムシ、カガヤ、アサギ、ヤブコ 小笠原
32	山村清夫・藤田珠美・須藤真平・木村喜夫・本間純・高橋直道・石田厚・中野隆志・船越真樹・木村允	1999	小笠原におけるギンムシ林の更新	保全生態学研究	4		152-166		ギンムシ 小笠原
33	吉田圭一郎	2001	移入植物ギンムシは在来植物にどのような影響を与えるのか？ 小笠原諸島鳥島の事例から	植生環境学 - 植物の生育環境の謎を解く -			189-200	古今書院	ギンムシ 小笠原
34	今本博臣・加藤正典・堀家健司・原総明	1998	琵琶湖の湖岸景観に関する研究 - 沈水植物の種組成と分布	応用生態学	1	1	7-20		沈水植物（カガヤ、カガモ、アザミ、アザミ） 琵琶湖
35	角野謙郎	1996	帰化植物による在来の自然への影響 - 帰化水草を中心に -	関西自然保護機関報告	18	2	115-120		水草（カガヤ、カガモ、アザミなど） 琵琶湖、兵庫、京都など
36	Koppwitz K. and H. Kaye (大塚秀憲訳)	1993	緑の侵略者	植物が消える日 地球の危機			212-230	八坂書房	数事列 世界
37	久保田秀夫・松田行雄・渡辺善夫	1978	日光御膳場分原湿原の植物				58-59	栃木県林業試験場環境課	オオバコ 栃木県（日光）

維管束植物以外の植物

番号	著者名	年	標題	資料名	巻号	ページ	出版社名	対象種	地域
1	岩月善之助	2001	日本の野生植物 コケ				平凡社	コケ類	全国
2	瀬川宗吉	1977	原色日本海藻図鑑				保育社	海藻類	全国
3	吉田忠生	1998	新日本海藻誌 日本産海藻図鑑				内田老鶴圃	海藻類	全国
4	北山内樹	1993	ヒラムチモ	堀野三(編) 藻類の生活史集成 - 褐藻・紅藻類			102-203	内田老鶴圃	ヒラムチモ
5	右田清台・一木明子	1992	九州西岸に産する <i>Outleria multifida</i> について	藻類	10		77-81		ヒラムチモ 九州
6	Enomoto, S., Ohta, H. and Suda, S.	1983	Transition of the marine algal flora around the northeastern Awaji Island.	Men. Grad. School. Sci. & Technol., Kobe Univ.	1	A	89-98		ヒラムチモ 日本暖海